

# 令和5年度 区市町村ヒアリング結果報告 (62自治体)

東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター

# 調査概要

## 調査目的

- 区市町村における通いの場づくりの課題や支援ニーズについて把握すること。

## 調査時期

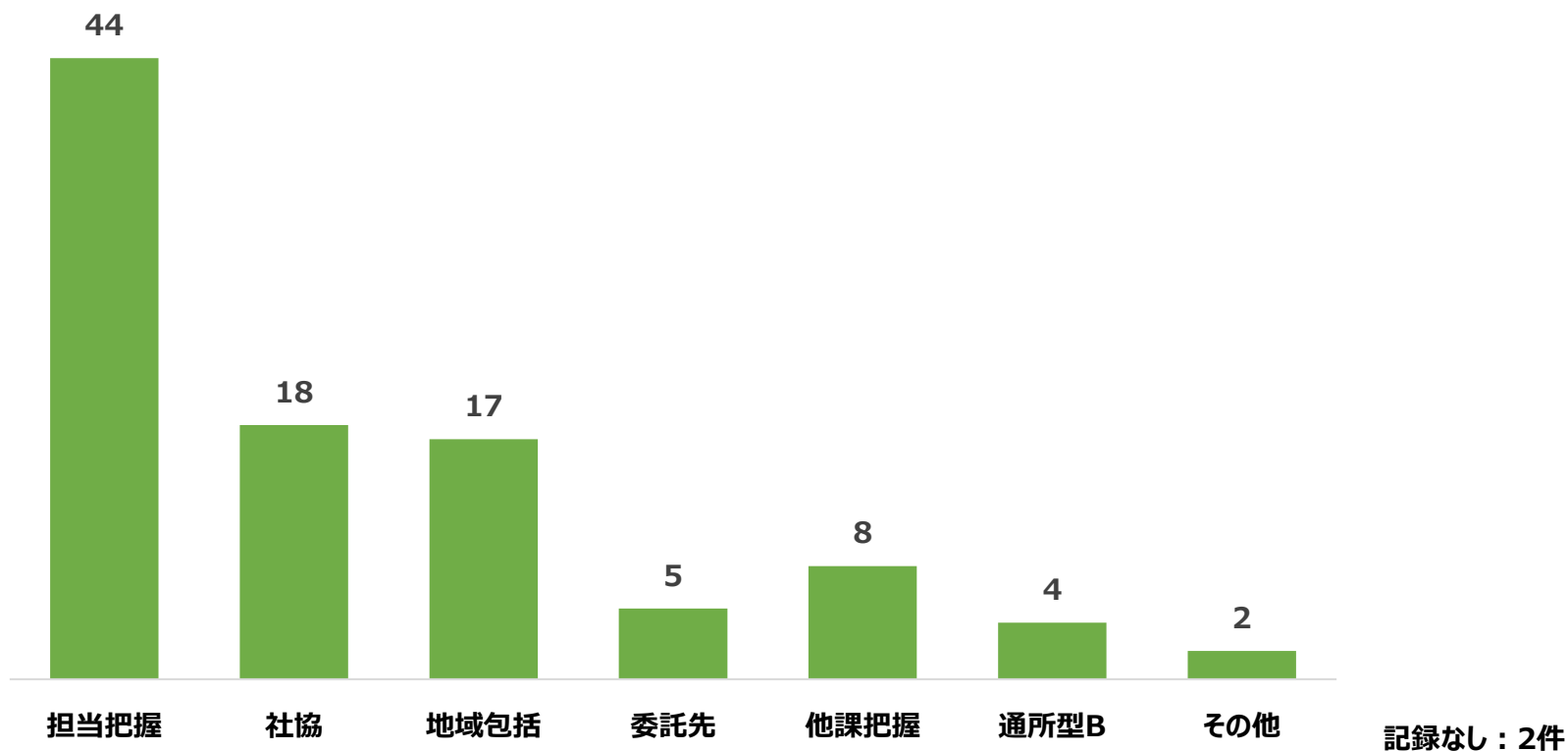
- 2023年7月～8月

## 対象者および方法

- 各自治体の介護予防担当者に対してヒアリングを実施した。
- 介護予防・フレイル予防推進支援センター職員が記録したヒアリング結果をもとに整理した（未回答自治体含む）。

## ●質問 1 : 通いの場のカウント基準・方法

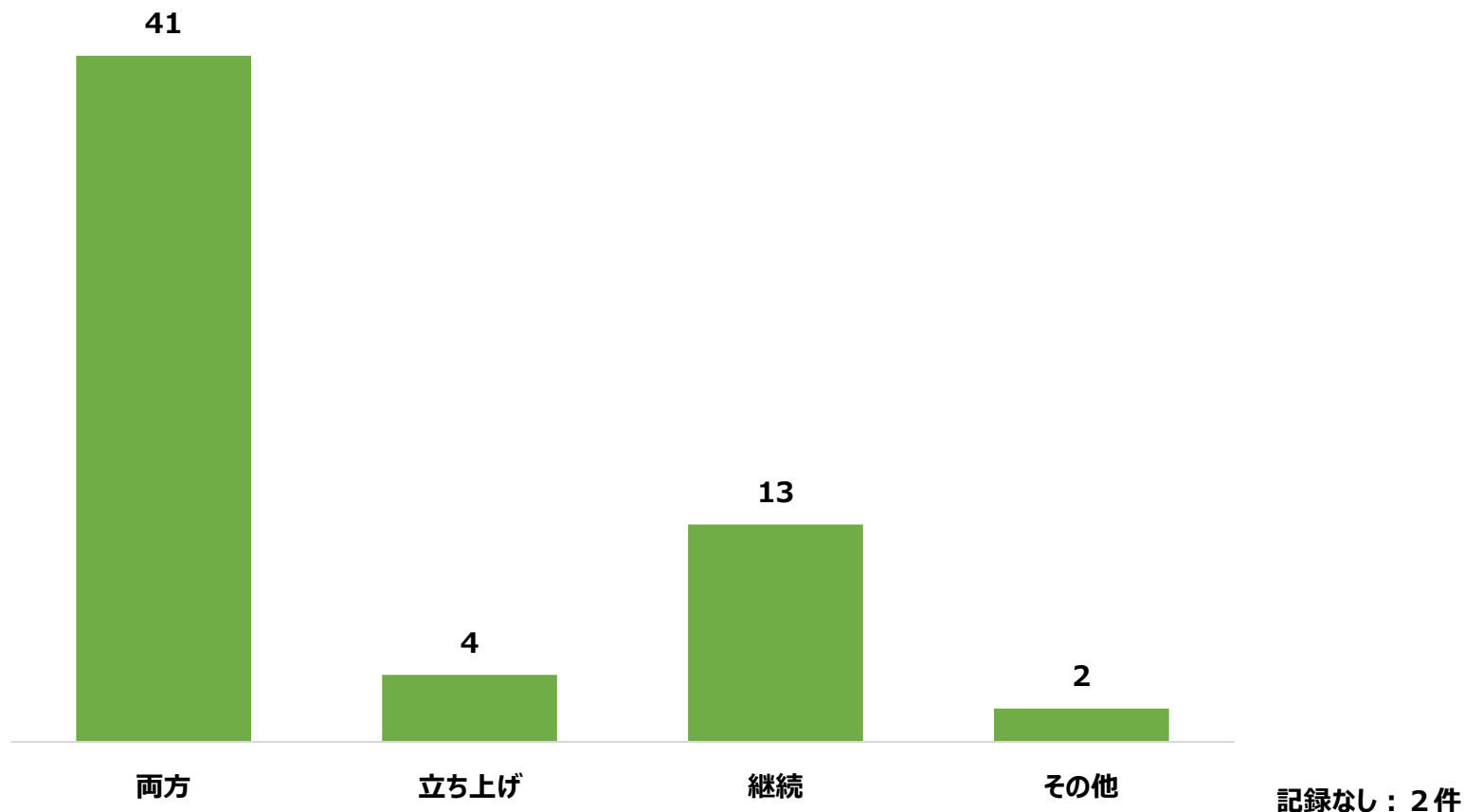
- 厚生労働省「介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況（令和4年度実施分）に関する調査」において、どのように通いの場を把握したのか。
- 担当課が把握しているもの、社会福祉協議会のサロン、地域包括支援センターの事業で把握されているもの等を計上した。
- 1自治体が複数の基準等を挙げている場合もある（例：担当把握＋社協＋地域包括を合計して計上）。
- 「その他」には、「通いの場はない（※島しょ部）」も含む。



通いの場のカウント基準・方法は、各自治体でさまざまであった。担当部署や包括の管轄する活動、場のみを集計している自治体もあれば、庁舎内の関連部署や委託先が把握する活動を含める自治体も見られた。

## ●質問2：通いの場に関して力を入れている支援方法

- どのような支援（立ち上げ支援、継続支援、立ち上げ・継続両方、その他）に力を入れているか。



両方と回答した自治体が多数であった。介護予防講座や立ち上げ支援事業等から担い手住民の発掘や育成を積極的に行っていた。継続支援に力を入れている自治体は、専門職やSCの派遣、出張講座の実施などの支援を行っている。

## ●質問 3-1：タイプⅢの現状と予定

■タイプⅢの現状や予定について、

「工夫」「課題」「予定」の枠組みから整理した。

■自治体職員から語られた内容に基づいている。

# ●タイプⅢの工夫・課題

## 【通いの場の増加、継続に関連した工夫】

- ✓ 補助金等の活用。
- ✓ 自主グループ対象の連絡会等の開催。
- ✓ 介護予防やフレイル予防教室と連動（参加者による自主グループ化など）。
- ✓ 介護予防・フレイル予防推進員の積極的な活用。
- ✓ 体力測定会などの開催。
- ✓ 屋外でできる活動の普及・促進。
- ✓ ボランティアリーダーの活用。
- ✓ 体操にゲーム要素を取り入れるなど工夫して参加継続促進。
- ✓ 住民ボランティアの育成に力を入れている。

## 【他機関や多職種との関係性】

- ✓ 保健師のアウトリーチを積極的に支援。
- ✓ 生活支援コーディネーターとの連携。
- ✓ 地域リハ派遣を積極的に活用。
- ✓ リハ職、管理栄養士、歯科衛生士、自治体職員等を通いの場へ派遣し、助言や支援を実施。
- ✓ 介護予防センターだけでなく、包括も日々動いており、立ち上げが進んでいる。
- ✓ 社会福祉協議会のサロンとの連携。
- ✓ 委託先企業（スポーツジムなど）との連携。

## 【通いの場の普及展開に関する課題】

- ✓ そもそも参加者の集め方をどうすれば良いのか分からない。
- ✓ 通いの場の数が増えればそれで良いのか分からない。
- ✓ 参加者がプログラムに飽きてしまう。

# ●タイプⅢの今後の展開

## 【活動場所、団体やグループ、担い手】

- ✓ 住民同士の交流会等の開催。
- ✓ ご当地体操を取れ入れた通いの場増加。
- ✓ 代表者（住民）へニーズの聞き取り調査。
- ✓ アウトリーチによる機能強化。
- ✓ 活動がマンネリ化しているグループへの支援。
- ✓ 新規団体の立ち上げ。
- ✓ 動機付け支援。体験講座4回予定。
- ✓ お達者教室を今年度から通いの場立上げ教室（最初からグループを作ろう）に変更
- ✓ 従来の介護予防教室や体力測定会に、通いの場の立ち上げ要素を入れて担い手を取り込む。
- ✓ ボランティアリーダーの活躍の場と技術面の向上に関する支援
- ✓ 専門職によって提供できる情報を整理しているところ（メニュー表の作成）
- ✓ 通いの場のアプリを活用
- ✓ 地域に強いリハ職、フレイル予防推進員の増加に期待。
- ✓ 健康教室にプラスして新規の立ち上げを進めたい。

## 【通いの場の広報】

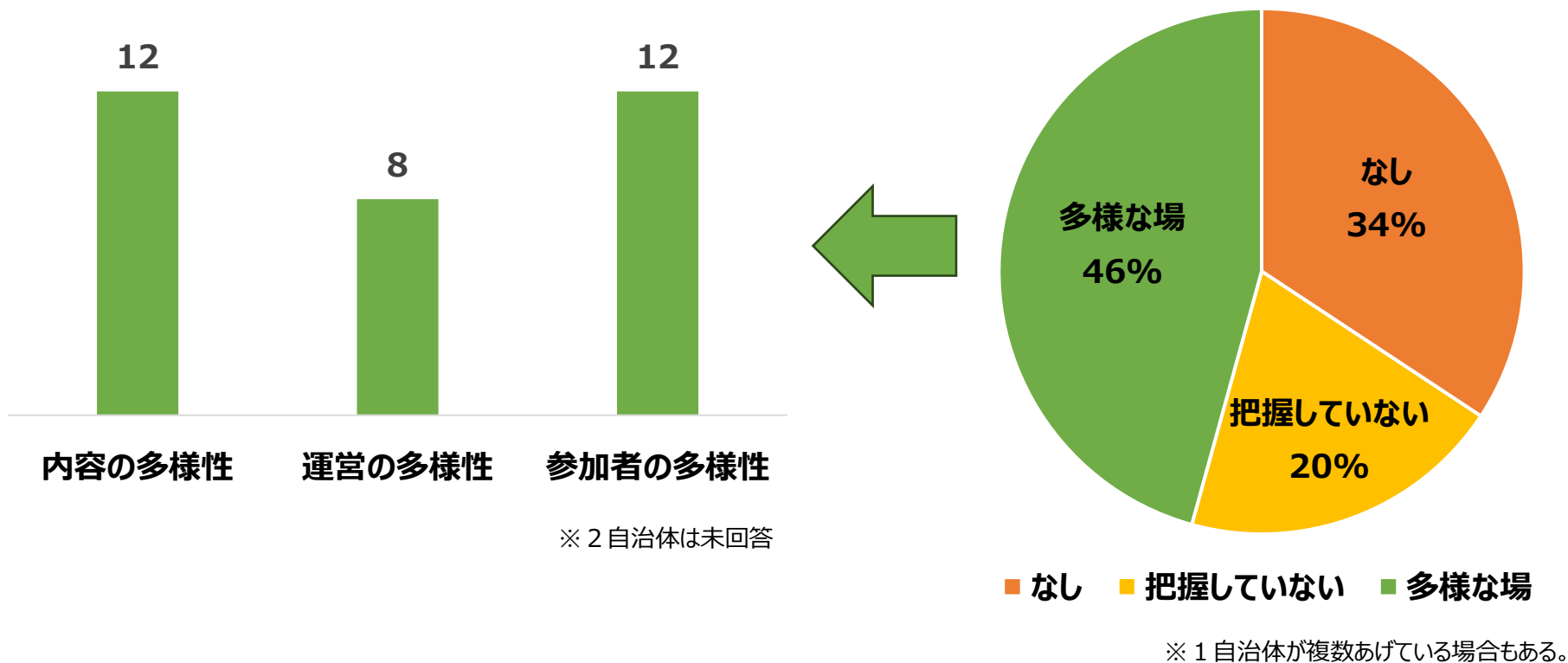
- ✓ 住民向け説明会の実施。
- ✓ 担い手の世代交代が課題であり、その課題克服のための取組を検討中。
- ✓ 生活支援コーディネーターと連携しながら自主グループを把握。

## 【その他（自治体全体の動き）】

- ✓ 文化系活動でも、体操を取り入れている。
- ✓ 具体的にどの程度増やすのかというのは9期計画に入れるか入れないか検討中。
- ✓ コロナを機に休止したまま再開できていない団体への再開支援

## ●質問3-2：「多様な場」の状況

※多様な場については「運営、内容、参加者の多様性を包含する」と説明している。



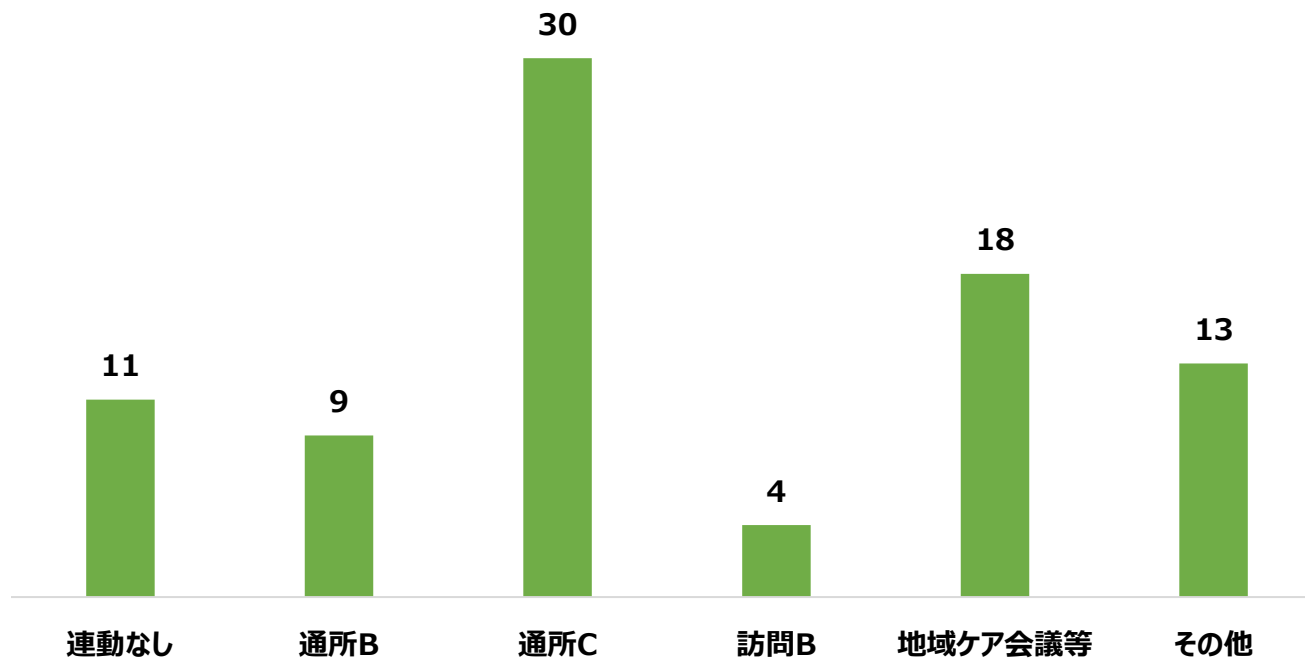
「多様な場」が特にない（把握していないなど含めて）自治体が約半数であった。

内容の多様性は多世代交流が最も多く、次いでプログラムの多様性が挙げられた。運営の多様性はNPO法人、大学、介護施設、農園施設、民間企業、商店街などであった。



## ●質問4：通いの場と他事業との連動について

- 1自治体が複数をおこなっている場合もある。
- ヒアリング記録でよく挙がる他事業を大まかに分類し、それに該当したものをカウントした。



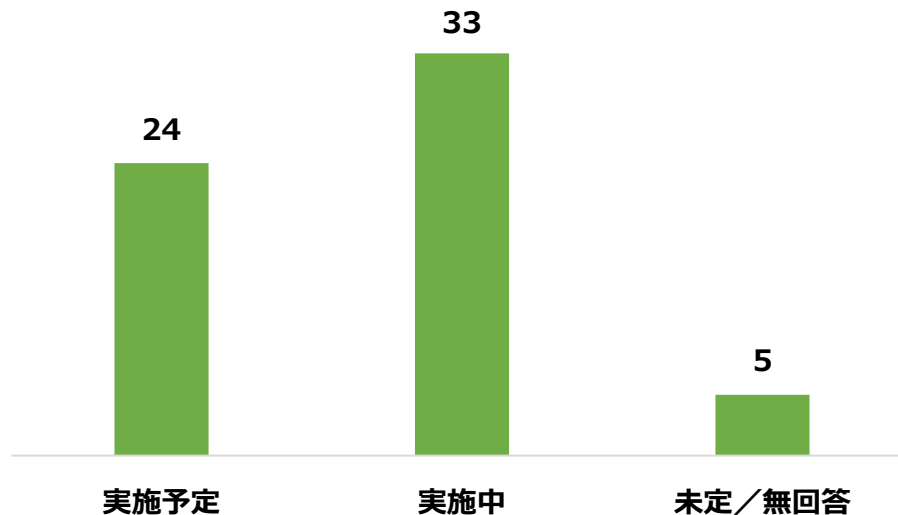
記録なし：2件

地域ケア会議との連動の数は多いものの「地域ケア会議で話をしている」というレベルのものも含む。

<その他>

- ・医療職との連携、リハ職との連携。介護予防に関する連絡会の開催
- ・生活支援体制整備事業（協議会・SC等）との連携

## ●質問5：保険事業と介護予防の一体的実施について



## ●質問6：通いの場の具体的事例

### ■ 15自治体が「あり」と回答

- ・URの敷地で、多世代交流のイベントを企画開催
- ・食に重きを置き、食を通して安心出来る日常の構築、障害者、高齢者、子どもの見守りと支援
- ・やりたいことに対して、区のセカンドキャリア講座で活動したい人に場を提供
- ・生徒に挨拶運動
- ・ノルディックウォークをしているサロン
- ・個人宅での認知症カフェの開催
- ・温泉の入浴客を介護サービスやサロン等に適宜つなげている
- ・ハートハウス

## ●質問7：オンラインを活用した通いの場

- 区部を中心にオンラインを活用していた。
- 市部や島嶼部ではWiFi環境が整っていないことや対面の希望者が多い等の理由からオンラインの活用を見送っている自治体が多かった。
- COVID-19の5類移行に伴い現地対面開催に戻す動きが盛んになってきた。

記録なし：2件

### 【具体的な活用方法】

- ✓ 認知症カフェでオンラインを活用
- ✓ ハイブリッド形式でオンラインを活用
- ✓ 住民がグループラインでつながり、活動している
- ✓ ICTサポーターによるスマホカフェ
- ✓ Zoom交流会
- ✓ 大学生による仕掛け
- ✓ スマホ教室の活用

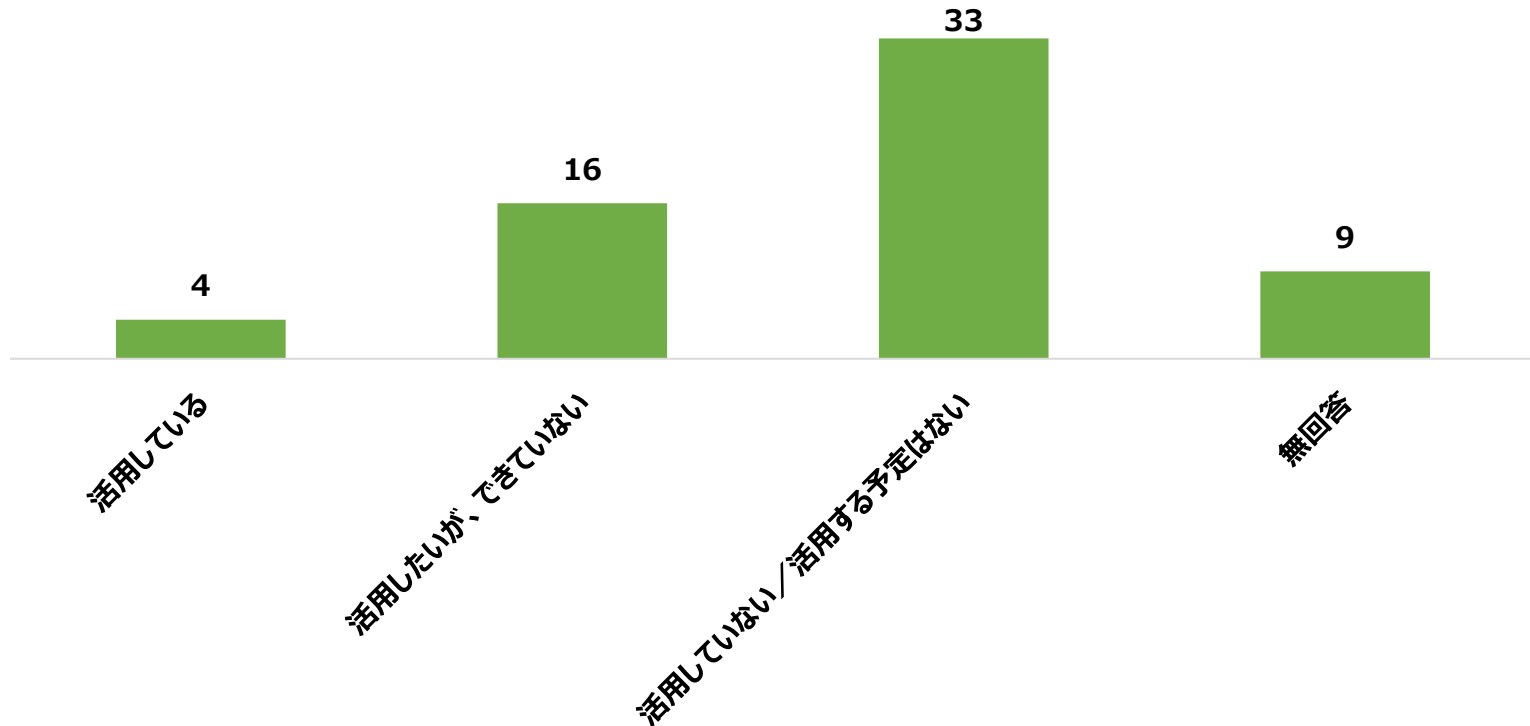
## ●質問8：コロナ禍の影響

- COVID-19の5類移行に伴い多くの自治体でコロナ前の状態へ回復傾向が見られた。
- 活動内容によっては、活動を休止・中止したままのところも多い。
- 担い手の高齢化、活動継続への意欲低下が見られる通いの場も多い。

記録なし：2件

- 会食や食事会の再開が難しい。
- 有料老人ホームなどの高齢者施設はコロナ禍で会場が使えないまま。
- 屋内から屋外へ、ウォーキングに変えたりして、活動に変化があった。
- 料理系の活動が復活してきたが、会食会などは回復していない。
- 外出控え、蜜を避けて、生活不活発になってから、復活していない。

## ●質問9：通いの場評価シート



- PDCAサイクルの意識が低かった。
- 通いの場を評価するといった観点がない。
- 通いの場の評価に使えるだろうと思うが、具体的な方法や進め方がわからない。
- 今後役に立つだろうと思うが、（予算取りなどの）計画や事業への活かし方がわからない。
- 活用を試みたいが、現在は使用していない。参加者入力が入力できずに断念。
- 評価のタイミングと使い方がうまくいかない。次年度の予算組や計画策定の時期であるが、この時期はこれをどう活用すればいいのか分からない。
- 個人情報の追跡ができずに活用できていない。
- 通いの場評価シートがどのような業務の局面で特に役立つのか、Q&Aなどの形でまとまっていると、行政としてはより活用しやすくなる。

# ◆ 支援センターに対する要望

※無回答または特になし：13自治体

カテゴリー名（度数）  
・具体的な内容例

## 他自治体の事例・情報を知りたい（16）

- ・他自治体の状況について情報提供
- ・同規模自治体の優良事例
- ※事例としては、多様な通いの場の立ち上げ、継続支援方法、地域ケア会議の関わり方など

【普及啓発】

## 相談および助言（21）

- ・適宜相談させてほしい
- ※具体的な相談・助言は、地域ケア会議の議題、通いの場の立ち上げ、一体的実施など

## 継続支援（8）

- ・定期的な会議、打合せの実施
- ・事業全般に関する定期的な打合せ

## 伴走支援（1）

- ・会議等に参加し、助言や講評を頂きたい。

## 講師または講師紹介（4）

- ・介護予防に関する講演会への講師派遣
- ・ケアマネ対象の講義依頼
- ・通所Cの事業者向け研修講師
- ・事業展開に応じた講師派遣

## その他（5）

- ・介護予防とフレイル予防の違いをわかりやすく説明してほしい。
- ・住民への動機付け
- ・長年継続しているグループへのマンネリ対策研究
- ・アンケートの時期は、国と都で合わせてほしい。
- ・体制整備事業について、どう進めていけば良いか。

【相談支援】

## 評価方法・指標に関する支援（6）

- ・事業評価について相談したい
- ・通いの場評価シートの活用方法
- ・ちよい足しの評価方法

【評価・効果分析】

## 研修における情報交換会（1）

- ・人口規模が同等のところとの情報交換会を開催して欲しい。

## 研修内容に関する要望（2）

- ・オンデマンドの機会を増やして欲しい
- ・リハ事業等の内容も検討して欲しい

## 研修の継続（1）

- ・引き続き研修事業は続けて欲しい

【人材育成】